



「葛飾区少年の主張大会」が開催されました

令和5年11月18日、かつしかシンフォニーヒルズにて応募者数326人の中から選ばれた小学生19人、中学生8人、計27人がそれぞれの主張を発表しました。

結果は次のとおりです(敬称略・同一賞内の順番はプログラム番号順)。地域教育課 ☎03-5654-8482

小学生の部

最優秀賞

鞠子 紗陽 (道上小6年)
「だから世界は」
戸澤 あかり(渋江小6年)
「多様性と私」

優秀賞

齋藤 彩実 (葛飾小6年)
「小学校で学んだことから生まれた目標」
海老原 香琴 (細田小6年)
「私の夢」
佐藤 芽衣莉 (川端小6年)
「食品ロスについて」
小坂 友楓奈 (よつぎ小6年)
「意志表現するための四色ブロックの導入」
水上 佳萱 (上千葉小6年)
「変えられる自分」

入選

本多 真桜 (上平井小6年)
鈴木 里歩 (南奥戸小6年)
上田 莉久 (住吉小6年)
松本 凜空 (新宿小6年)
勢司 和樹 (金町小6年)
野村 里桜 (半田小6年)
増田 千遥 (原田小6年)
榎本 みずき (綾南小6年)
遠藤 結花 (西亀有小6年)
佐藤 心愛 (中青戸小6年)
中村 美咲 (飯塚小6年)
倉本 あおい (松上小6年)

優秀賞

蜂谷 凜紗 (奥戸中1年)
「SNSと学校と私達」
ジャッド ジェシカ (水元中2年)
「ハーフあるある2」

入選

藤井 杏奈 (新小岩中1年)
田口 由姫 (一之台中3年)
新保 杏奈 (青葉中1年)
楠見 すみれ (青戸中1年)
星川 美恵 (水元中3年)

中学生の部

最優秀賞

田村 優奏 (中川中3年)
「挫折からのスタート」

司会は昨年度
中学生の部
最優秀賞の
望月香愛さん
(水元中3年)



中学生の部・最優秀賞

挫折からのスタート

中川中学校 3年 田村 優奏

「自分の物語をつくり上げていくのは自分自身」

これは、私が学校に通えなかった時期に読んでいた本の一節です。この本の一節との出会いが、私に「今」を少しでも変えてみようという勇気をくれました。

私は、中学2年生の秋ごろから不登校になりました。1年生のときは私にも仲の良い友達がいまして、楽しく学校生活を送っていました。しかし、2年生になってクラスが変わってからは、自分の居場所が分からなくなり、毎日が苦しくなっていました。学校に行けなくなった最初の1週間は、規則正しく生活できていたのですが、段々と生活リズムが崩れていき、勉強にも手がつかなくなりました。また、このまま学校に行けなくなり、今の生活が続いたら、自分は高校に入学できるのか、将来の夢も叶えることができないのではないか、という不安で頭がいっぱいになりました。何をしてもやる気が出ず、「人生終わったな」と思っていたとき、母から渡された安田祐輔さん作の本『未来が変わる勉強法』にこの「自分の物語をつくり上げていくのは自分自身」という言葉が載っていたのです。

当時、私は一度学校に行けなくなってしまったら、これからの人生に悪い影響が出てしまうのではないかと、これから先、何十年も続く人

生をひどく悲観していました。そんなある日、父が、父の今までの人生について話してくれました。高校受験に失敗し、一年浪人をして高校に入学した父は、同級生が高校に通っている間ずっと家で勉強をしていることが恥ずかしく、辛かったと言っていました。でも、私から見る限り、今、父は仕事も趣味も楽しそうに行っています。父は趣味で音楽を作っていて、海外の方から父の音楽の使用許可の申し出があったとも聞いています。そのくらい一生懸命に、でも楽しそうに「今」を生きています。父の過去と今を知り、誰も一度は経験するかもしれない挫折を、私は人より早い時期に迎えたのだと捉えるようにしてみました。そう思うことで、不登校で悩んでいることは必ずしも悪いということではないし、今、辛い思いをした分、これからの人生は絶対ハッピーになる!と前向きな気持ちを持つことができました。

私は今、学校に通うことができているのですが、どのような気持ちの変化があって行けるようになったのか、改めて考えてみました。そしてそれは、過去に辛かったことや苦しかったことを変えるのではなく、今、自分にできること、変えられることから変えていこうと思ったことにあるとわかりました。私の場合は、全く外に出ておらず、ポロポロだった生活リズムを整えるために、習い事に通うことや一週間に一度学校に行くことから始めました。次の言葉は、神学者ラインホルド・ニーバーの祈りの一節です。

「変えられるものは、それを変えるだけの勇気を、変えられないものは、それを受け入れる冷静さを、与えたまえ。」

自分がいくら頑張っても魔法使いではないので、他人の気持ちや過去の出来事は変えられません。それは、誰もが受け入れなければならない事実です。けれども、変えられない過去や事実がある中で、それでも変えられる未来のために、試行錯誤していくことはできます。

中学3年生になった今、優しい友達にも恵まれて楽しい学校生活を送ることができています。また、志望校も決まり、この先の未来に希望が見えてきました。私は、不登校になったことを通して、一人の人間として、とても大切なことを学ぶことができたと思います。そのことで、不登校という名の挫折を未来の自分が振り返って糧にできるよう、自分の人生の「物語」として受け入れられるようになりました。これから先、もっと辛いことや苦しいことがあるかもしれませんが、自分の物語をつくり上げていくのは自分自身なのだから、自分が信じて変えられる、出来ると思ったことを素直に選んで行動していける、そんな私でいたいと思います。

